

若松公民館だより

〒264-0021 千葉市若葉区若松町2117番地の2 電話 043-231-7991
本紙は若松中、小倉小、若松小、若松台小、第32地区町内自治会に配布しています。



若松公民館 HP

新型コロナウイルス感染症の位置づけが5類感染症になり、制限されていた活動がほぼ以前と同じようにできるようになりました。何かやってみたくかスキルアップをお考えの方は、ぜひ公民館をのぞいてみてはいかがでしょうか。既存のサークルをご紹介しますこともできますし、ご自分で仲間と新たなサークルを立ち上げることも可能です。やる気のお手伝いをさせていただきます。

さて、当館では昨年度に「千葉県教育功労者（社会教育団体の部）」として表彰される栄誉を得ることができましたが、今年度は2月9日に※優良公民館として文部科学大臣より表彰されることとなりました。表彰されるに至った、主な取組内容として次のようなものがあります。「坂月川親子生き物教室」は、坂月川の美化活動や保全活動を行う「坂月川愛好会」と連携し、令和元年度から開催している講座です。公民館としては「生きがい作り」の視点で会の普及活動を支援するとともに、自然のすばらしさや環境保護に対する知見を深め、地域への愛着を持ってもらえるよう、毎回プログラムの見直しを行っています。また、地域の

学びの場の減少・つながりの希薄化を危惧し、近年は「サークルの創設を目指した連続講座」の開催に力を入れています。千葉市の公民館としては20年ぶりの表彰となるようですが、今後も、地域人材の発掘や、子どもを介した若い世代の取り込みを行うなど、地域のさらなる活性化に努めたいと思います。

最後になりますが、当館には図書室も併設されており、新たな蔵書を購入して古くなった本との入れ替えも行っています。市の図書館や図書室に収蔵されている本を当館で借りることもできます。地域に根差した社会教育施設ですので、お気軽にご利用いただきたいと思います。

2024 若松公民館長 伊藤 直樹

※ 文部科学省では、全国の公民館などの社会教育活動を行う施設のうち、特に事業内容・方法等に工夫をこらした活動を行い、その活動成果を生かして、人づくり・まちづくり・地域づくりに大きく貢献しているものを優良公民館として、文部科学大臣が表彰しています。（昭和23年度から実施、今回で76回目）



詳細は [検索](#) [優良公民館表彰](#)

若松公民館クラブ等連絡協議会主催

「第40回文化祭」開催！

10月14日（土）、林大雄会長（若松太極拳同好会）の挨拶で文化祭が開幕しました。文化祭は「日頃の学習の成果を地域に還元する」ことを目的に、若松公民館を利用するサークルの有志からなる「若松公民館クラブ等連絡協議会」が主催するもので、公民館は後援という形でサポートしています。コロナ禍を経て誕生した2団体（ローゼルの会・若松混声合唱団）と初参加の1団体（エコクラフト）を加えた21団体（坂月川愛好会・書楽会・泉墨会・遊の会・ラタンの会・スイーツの会・



の会・若松混声合唱団）と初参加の1団体（エコクラフト）を加えた21団体（坂月川愛好会・書楽会・泉墨会・遊の会・ラタンの会・スイーツの会・

あんしんケアセンター都賀・ワークホームたけのこ・らくらくヨーガ・紙芝居教室・体操サークル・マジック同好会・ギターサークル・一翠会・水曜囲碁会・障害者の就労

を支援する会）が参加しました。4年ぶりの出演となった若松中吹奏楽部の演奏は、多くの来場者が訪れました。1年生にとってはお客様を前に初めての演奏だったようで、会場は心地よい緊張感が漂いました。また、若松小・小倉小・若松台小・若松中の紹介ポスターも展示されました。15日（日）はあいにくの雨でしたが、2日間で360人が来場しました。役員の皆様お疲れ様でした。



文化祭の開催に尽力された役員の皆様
坂月川愛好会・紳一郎さん／遊の会・淑子さん／らくらくヨーガ・光子さん／若松一翠会・みつ子さん／若松太極拳同好会・大雄さん

6月11月の公民館講座報告

癒しの時間 絵本の会による「大人のためのお話し」

6月15日に開催した「絵本の会」(代表 馬場恭子)によるお話しは、ふだん子どもたちに披露している絵本の読み聞かせや紙芝居だけではなく、朗読や語りも加え、より充実したプログラムで来場者を楽しませました。出演者も2回目の開催とあつてか表情が柔和で、終了後には学習の成果が発揮できたという達成感に満ちていました。

東日本大震災の語り部から学ぶ

昨年から引き続き、元岩手県釜石市の中学校教諭の糸日谷美奈子さんを講師に防災講座(8月27日)を開催しました。千城台公民館をメイン会場に若葉区内の4館がオンラインでつながりました。

夏休みの宿題と思い出は 若松公民館にお任せ!

毎年恒例の千葉市科学館出張科
学イベント。今年は24人の小学

生が、重曹とクエン酸を使い、発泡入浴剤を作りました。東京ガス夏休み出張講座「リサイクルして万華鏡を作ろう」は今年も親子で参加する方が多く、ガスの匂いや、都市ガスとプロパンガスの特徴について説明を聞き、驚きの声をあげていました。「スクラッチ入門(基礎編)」では、3〜6年生の10人が授業にも取り入れられているプログラミングを体験しました。特別支援学級・学校を対象とした「スポチャン教室」を今年も開催しました。ちば産学官連携プラットフォーム事業「大学の先生が教える体幹トレーニング基礎講座」(帝京平成大学 齊藤訓英)には、若松中学校テニス部員12人が参加し、能力を最大限生かすためには、体の構造を理解した上で、個性に合わせたトレーニングが必要であることを理論と実技で学びました。

夏休みの最後には、コープみらいのエコプログラム「エコバッグ作り」を開催しました。型紙を使ってアクリル絵の具で染めた作品を見られました。



はーちゃんは、お空に旅立った愛犬てんとおじいちゃんのお話を紙芝居にしました。



紙芝居作家が伝授する「手作り紙芝居教室」(全4回)は、若葉区在住のとなみゆりこさん(紙芝居作家・Kamishibaist)が、小学3〜6年生の5人にお話作りから紙芝居の作成、演じ方までレクチャーしました。最終回には保護者も集まり、紙芝居を披露しました。

『公民館で学ぶ6』長澤成次編著(国土社2023)に令和元年度に実施した「おかし作りリーダー養成講座」の実践報告を寄稿しました。市内の図書館に収蔵されています。

沖縄楽(学)

自然・文化を学ぶ

5月10月

沖縄楽(学)は、自然・文化を学ぶは、共通の趣味を通じた地域の仲間づくりを目的に

スタートした全6回の講座です。「沖縄県立博物館」の展示解説書をテキストにして、学芸員の解説動画等も見ながら知識を深めました。お仕事で関わった沖縄の建築に関する解説をしたり、しばらく触っていなかった三線を披露したりして、受講生自身が講座を盛り上げ楽しむ様子が見られました。手作りのサーターアンダギー(砂糖天ぷら)をふるまってくくださる方もいました。人数も限られており、サークルの創設には至りませんでした。続編や三線のグループレッスンの機会があればまた参加したいという声がありました。



沖縄県浦添市と中継をつなぐ、沖縄の家屋を学びました。

グループレッスンの機会があればまた参加したいという声がありました。

5〜7月まで全6回開催した「サークルの創設を目指して 若林先生と男女混声合唱」から誕生した「若松混声合唱団」の会員は25人。文化祭では結成2カ月とは思えない素晴らしいハーモニーを披露してくれました。会長は和男さん、副会長は芳郎さん、会計は千恵さん、町子さんが務めてくださっています。役員は活動しやすいルール作りを模索されています。会員の皆様もどうぞ役員の皆様にご協力ください。(中村)